

「どんなことでもいい、小さくてもいいから、夢を持とう。」



6月初めのお話朝会でこんな話をしました。
 お話の最初に駅伝の襷（たすき）を示して、私が以前中学校の部活指導で生徒と共に全国中学校駅伝を目指して「夢」を叶えた経験を話しました。そして、「夢とは、どういう意味でしょう。」という質問をしました。すると3年生の児童から「夜、寝ていて見るもの。」という答えが返ってきました。更に6年生の児童からは「将来のこと」という答えが出ました。私からは、両方とも正解であることを伝え、今日話そうと考えている「夢」は後者の方で、広辞苑には「夢とは、将来実現したい願ひ。理想。」と書いてあることを説明しました。そして、子どもたちに「夢」を持ち続けることがいかに意義深いことかを分かりやすく説明するために、次の言葉を紹介しました。

世界陸上東京大会で金メダリスト、バルセロナオリンピックで転倒というアクシデントに見舞われながらも8位入賞を果たした、日本を代表するマラソンランナー「谷口浩美（当時：旭化成）」の言葉です。

「夢なき者 理想なし 理想なき者 目標なし 目標なき者 実行なし 実行なき者 成果なし 成果なき者 喜びなし」

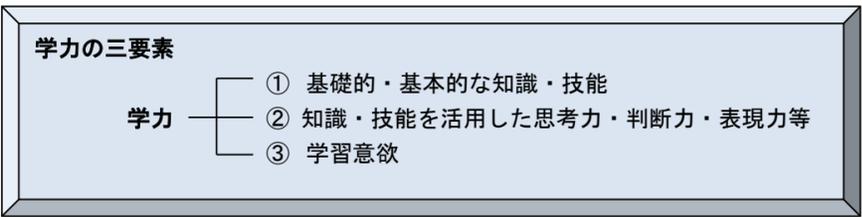
この言葉から私たちも夢を持ち続けることの大切さを感じ取れるのではないのでしょうか。朝会の後、子どもたちに紹介したこの言葉のプリントを「自分の部屋に貼りたいのでください。」と、数名の児童が私の所へ来ました。（嬉しく感じました。）

今、サッカーのワールドカップが開催されています。世界中から選抜抜かれて集まったサッカー選手。彼らも幼いころから「夢」を持ち、実行し続けた証として、今、憧れのワールドカップのピッチに立っています。夢を持つこと。夢を持ち続けること。そして夢に向かって努力し続けること。子供たちが自ら夢を持った時、周りの大人は、心から応援してやりたいと思います。もちろん、夢は時と共に変わることもあります。大切なことは、いつでも子供たちがその大小に関係なく夢を持ち、それを目標にして毎日を意欲的に取り組めることではないでしょうか。

学力(学力の三要素)と生活習慣づくりについて

4月22日（火）には全国学力テスト（6年生対象）が実施され、先日6月10日（火）には「基礎・基本」定着状況調査がありました。これは広島県の公立小学校5年生、中学校2年生を対象に基礎的な学力の定着の状況を見るためのものです。本校5年生も問題に真剣に取り組んでいました。結果は8月の末頃に出る予定です。

今回は、現在、必要とされている学力とは何かを、保護者の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。学校教育法で学力の三要素というものが平成19年6月に明確に規定されました。通常は学力の概念などは、多くの場合、法律上や学問上の解釈に委ねますが、学校教育法で規定されたということは、それだけ学力論について多様な論議や関心があり、また、この時期に国家レベルで学力向上に取り組むためにも大切であったものだと考えられます。



①は「繰り返し学習」で身に付くような学力です。これまで、この①が重要視され、覚える事が得意な子どもが有利でした。しかし、最近では社会の発展が急速過ぎるので古い知識が不要なものになる事も多く、①だけでは対応できなくなって来ました。例えば、昔、覚えた世界の国名が違う名前になっています。日本の地方都市の名前においても同様のことが言えます。今ではソロバンもあまり使わなくなりました。パソコンの機能もどんどん高度になってきます。覚えることも大切ですが、推論が出来たり、知らないものを調査したり、全然知らない人と積極的に話ができたりするコミュニケーション力等も必要になってきました。つまり、知識を身に付けるだけでなく、既習の複数の知識を関連付けたり繋げたりする力である②が重要視されるようになって来たのです。そして学力を支えている基盤と考え

ていた③の「学習意欲」自体も学力の範疇だと、最近では考えられています。この①②③、どれも大切です。それをいかにバランスよく育てるのが、今、学校を始めとする教育の現場では問われています。そういう傾向が全体にありますから、高校入試問題等も暗記重視型から身に付けた知識や資料をもとに活用する力を問う問題へと少しずつ変わって来ているようです。特に、保護者の皆さんと関係が深いのは、③に関係ある家庭学習です。高野小学校では高野中学校と連携して、中学校の定期テスト期間に合わせて「アウトメディア・生活リズムづくり週間」に取り組んでいます。何時に起き、家に帰って、すぐ勉強する、あるいは帰って10分経ったら勉強する、そして何時に寝る等、一日を規則正しい生活リズムで過ごす、心身共に健康的で、学力の向上にもつながります。また、アウトメディア（テレビ・ゲームをしない日をつくる）により、学習や家の手伝い・家族と話す時間等に使うことができます。

毎日、計画的で規則正しい生活ができれば学力が付きます。良質な睡眠を取れば、授業中の脳も良く動いてくれます。判断も冷静にできるでしょう。是非、「アウトメディアや生活リズムづくり週間」には家族みんなで取り組んでくださることをお勧めします。毎日の積み重ねが、大きな差となります。ギリシャの自然科学者であり哲学者であったアリストテレスは「良い建物を造り続けることによって良い建築家となる。良い習慣が身に付いた人が立派な人間となる。人間はその大部分が習慣の束である。」と言っています。高野小学校の児童には、良い習慣を身に付けることにより知・徳・体のバランスのとれた豊かな力を身に付け、自分自身に納得のいく悔いのない人生を歩んでもらいたいと思います。私達、大人は子ども達に、良い習慣が付くように、応援し続けて行きたいと思います。保護者の皆様も、是非、しっかり見守り、応援をしてやってください。宜しくお願い致します。

高野小児童大活躍！！ 庄原市小学校陸上競技記録会から



去る6月21日（土）に庄原市上野総合公園陸上競技場で庄原市小学校陸上競技記録会が開催され、高野小学校からも22名の児童が出場しました。（出場資格は4年生以上）2週間程前から5日間程度（1日30分間）の練習での出場でしたが、出場した児童全員が力一杯競技し、それぞれに自分のベストを尽くしてくれました。競技の結果については、「高野小学校だより」6月号に掲載していますので、ご覧ください。



尚、記録会の結果として、10月5日（日）の県民体育大会（陸上競技の部）に女子400mリレーと80mハードルの2種目で出場できるようになりました。（おめでとうございます。）そして、出場する人は、当日に向けてもう一度練習に取り組み、庄原市の代表として堂々と競技に臨んでもらいたいと思います。

2週間前から行った記録会に向けての練習の様子を紹介します。どの子も非常に記録会を楽しみにしているようでした。昨年度の出場経験者は前回の自分の記録だけでなく出場種目の記録や順位などもよく覚えていました。そして、今年を目指す順位や記録も明確に持っていました。5日間の練習でしたが、練習の回数を重ねるごとに練習に出てくる時間も早くなり、しかも言われなくてもウォーミングアップ（準備運動）を始めるなど子どもらの意欲の高まりが感じ取れました。メインの練習に入っても積極的に取り組む姿勢がよく見られました。100mのタイムトライアルにも繰り返しチャレンジしていました。ハードルの練習も最初は跳べなかったり、引っ掛かって転倒したりしていましたが、繰り返しの練習で、リズムよく跳べるようになりました。また、リレーのバトンパスの練習も先生の指導をよく聞いて、限られた時間の中で「ハイ」という声を掛け合いながら上手にこなせるようになりました。リレーの記録も計測するたびに伸ばすことができました。（本番では5秒くらい短縮することができました。）練習最終日は、「もう少し練習したい。」という思いが強かったようです。下校バスの時間ぎりぎりまで100mのタイムトライアルや、ハードルの練習を繰り返していました。



力でした。目標をもった時の子どもたちの何かに取り組む行動力は計り知れないものがあると思います。大会終了後の子どもら一人一人の表情も達成感に満ちていました。来年度は、4年生以上の児童全員の参加を願っています。

このような児童の一生懸命に取り組む姿から、我々学校関係者はもとより大人が、子どもらの「もっともっと伸びたい。」という本当の気持ちをくみ取り、子どもらに様々な分野でチャレンジする機会を提供し、鍛える場面(努力する場)を増やすことで、子ども一人ひとりが本来持っている無限の可能性を發揮させてやりたいと思います。スポーツに限らず様々な体験を通して、子どもらが自分でも見えなかった自己の能力や可能性に気付くことができれば子どもらの将来の選択肢は大きく広がります。